

【課題番号】 IMF-2203

【研究課題名】 SDGs 実現に向けたフォローアップ・レビューのガバナンスに関する比較研究

【研究期間】 2022年度（令和4年度）～2024年度（令和6年度）

【研究代表者（所属機関）】 公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）天沼 伸恵

研究の全体概要

本研究の最終ゴールは、達成が危ぶまれる SDGs の進展を加速させ、日本政府が課題として挙げる点への対応に資するため、SDGs における効果的な国レベルの FUR ガバナンスのための諸条件を特定し、FUR ガバナンス強化のための方策を示すことである。

このゴールに至るため、本研究では2サブテーマ体制を構築する。サブテーマ1では、デンマーク、ドイツ、フィンランドを対象に、国レベルの目標・指標や FUR 体制と、特にステークホルダー参画のあり方に焦点をおいたそれらの構築プロセス、及び実際のレビュー内容と結果を詳細に調査・分析し、国レベルの FUR の枠組みとプロセスに関する方法論を確立する。サブテーマ2では、国内外における SDGs 先進自治体を対象に、自治体レベルの FUR の枠組みとプロセスについての事例研究を行い、国レベルの FUR に活用可能な教訓を導出すると共に、主に VNR と VLR に着目して国と自治体との FUR に関する連携について方法論を提示する。サブテーマ2の成果をサブテーマ1に統合し、サブテーマ1では最終的に、国と自治体レベルでの FUR の接続性のあり方も踏まえ、効果的な FUR ガバナンスのための諸条件を特定し、FUR ガバナンス強化のための方策を提示するとともに、日本に適した国レベルの FUR の枠組みとプロセスの提案を行う。それにあたっては、必要に応じて外部専門家も交えたワークショップ等の開催や、当該分野のステークホルダー及び専門家や政府関係者から助言を受け、適宜修正し、完成させる。

研究課題名：SDGs実現に向けたフォローアップ・レビューのガバナンスに関する比較研究

1

サブテーマ1:

SDGs実現に向けた国レベルのフォローアップ・レビューの枠組みとプロセスに関する研究

(研究代表機関：地球環境戦略研究機関)

2

サブテーマ2:

国との連携を見据えた地方自治体レベルのフォローアップ・レビューに関する研究

(研究代表機関：地球環境戦略研究機関)

成果物

1

効果的なFURの枠組みとプロセスに関する学術論文

・SDGsにおけるFURの枠組みに関する比較研究、効果的なFURガバナンスの諸条件と強化のための方策に関する研究、FURへのステークホルダー参画の評価と比較研究、国レベルのFURの方法論に関する研究、VLRに基づく地域FURの国際比較、地域のFURの枠組み等

成果物

2

政策プロセスへのインプット

・地域のFUR枠組みの提案、日本に適した国レベルのFURの枠組みと参加型プロセスの提案、次回SDGs実施指針改定時のパブコメ、次回VNR作成プロセスにおけるインプット・提言、HLPF等での国連及び国際社会への知見共有、その他の日本及び国際的な持続可能な開発政策のプロセスへのインプット・提言（特に、2023年のSDGs実施指針改定、2024年頃に開始が見込まれるVNRプロセス、HLPF等の機会を活用）

学術的に期待される結果

1

・既存のSDGsガバナンス研究の成果の精緻化（効果的なFURガバナンスの諸条件と強化のための方策の提示、国レベルのFURの方法論の提示、国と自治体とのFURの連携に関する方法論の提示、ステークホルダー参画の現状に関する包括的な比較研究等を通じて）

実務的に期待される結果

2

・国と地域をつなぐFUR接続性の強化、日本で国内目標とそれに対応する指標が策定、進捗評価のための体制が強化、実行性あるステークホルダー参画の確立（特に、SDGs実施指針改定や次回VNRプロセス、HLPF等の機会を通じて）